

農業就業者の減少や高齢化等が進行する中、本県の園芸作物の農繁期における労働力不足はこれまで先行して取組みを進めてきたさくらんぼに加え、すいかやえだまめ等のさくらんぼ以外の園芸作物においても顕在化してきている。そのため、平成30年3月に策定した推進方を踏まえ、関係機関・団体等が連携し、労働力不足の解消に向けた多様な人材を確保していくための取組みを推進する。

### 事業実施主体構成員

J A 山形中央会、J A 全農山形、J A (代表)、農業会議、やまがた農業支援センター、農業法人協会、地域営農法人協議会、認定農業者協議会、やまがた育児サークルランド、シルバー人材センター連合会、中小企業団体中央会、山形労働局、県内市町村(代表)、山形県(子育て推進部、商工労働部、農林水産部)

### 実績値(目標値)

無料職業紹介所設置 J A 数: 10 J A (目標: 15 J A)  
J A 無料職業紹介所を通じた労働者確保経営体数: 585 経営体  
(目標: 350 経営体)  
労働環境に関する経営体への満足度: 96.8% (目標: 80%)

## 令和2年度取組み内容

### ア 労働力の需給状況の把握

本協議会の推進方針の策定に際した労働力確保の現状と課題の把握のため、平成29年度に農業者及び求職者を対象として大規模調査を実施。90%に相当する経営体が、将来的な労働力不足を懸念しており、品目別ではさくらんぼ、えだまめ、りんごなどで労働力不足の声が多かった。

### イ 労働力の確保・育成

県内の労働力掘り起こしのため、新たにラジオCMやリスティング広告等の多様なメディアを活用し、J A 無料職業紹介所のPRを重点的に実施した。求職者を集めた作業研修会等に代えて、作業ガイドブックの配布やさくらんぼ箱詰め研修キットの活用等により、リモートでの技術習得支援を行った。

### ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化

J A 無料職業紹介所によるマッチングを引き続き実施した。各J Aでのマッチングは、まず求職者に対して電話や直接面談により希望する労働条件等を確認し、その内容を求人農家に伝えて意向確認を行った上で両者をつなぐなど、丁寧な対応によりミスマッチを減らし、着実な成果を上げた。

### エ 農業の「働き方改革」への取組み

農業者向けに労務管理や人材育成にかかる研修会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送ることとなった。より幅広い人材から農作業に協力してもらうため、従来の長期雇用だけでなく、働き手一人ひとりが都合に合った柔軟な働き方が選べるようにする方法を検討。農業アルバイトアプリを活用した1日単位のマッチングをさくらんぼ作業で本格導入することを目指し、活用に向けた体制づくりを行った。

### オ 他産地・他産業との連携による労働力確保

県外産地との連携が困難だったため、「さくらんぼサポーター企業」の取組みを拡充し、県内の他産業との連携を推進した。最も労働力不足が深刻なさくらんぼ作業の時期には、休業中の他産業従事者からのボランティアやアルバイトの協力を得ることができた。

## 課題と令和3年度の実施内容

<b>ア 労働力の需給状況の把握</b>	
<b>【課題】</b> 本協議会の労働力確保推進方策の見直し時期となり、取り組み成果の総合的な検証及び課題の整理が必要。	<b>【次年度の取り組み】</b> 協議会としての取り組みの成果検証と今後の方向性を整理するため、農業者、求職者（女性、若者、高齢者）、求人・求職窓口を対象とした調査の実施についての検討を予定している。
<b>イ 労働力の確保・育成</b>	
<b>【課題】</b> 引き続き県内を中心とした農業労働力の確保を推進していくとともに、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて県外との連携方法も検討していく必要がある。	<b>【次年度の取り組み】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・JA無料職業紹介所の設置を引き続き推進する。</li><li>・新たなターゲット層からのさらなる労働力確保に向けて、1日農業アルバイトアプリ「daywork」の本格的な活用により、農作業協力者のすそ野を広げる。</li><li>・作業ごとの内容を紹介する動画を作成して情報発信することで、初心者への作業への理解を促進するとともに、安心して作業に参加できるよう支援する。</li></ul>
<b>ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化</b>	
<b>【課題】</b> JA無料職業紹介所でのマッチングは成果を上げているが、業務負担も大きく、件数を増やすことが困難。	<b>【次年度の取り組み】</b> JA無料職業紹介所の求人ウェブサイトの機能を見直し、農業者と求職者の希望を的確に把握し、効率的なマッチングにつなげる。あわせて、アプリの活用により従来の取り組みを補完する。
<b>エ 農業の「働き方改革」への取り組み</b>	
<b>【課題】</b> 農業の「働き方改革」の理解促進に向けた研修会等の開催が困難となっており、農業者、働き手双方への新たな情報発信の手段について検討が必要。	<b>【次年度の取り組み】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・農業者向け：適切な労務管理や労働環境改善、多様な人材の雇用等、農業のイメージアップに貢献する優良事例や、雇用上のトラブル解消の事例等の共有を通し、「働き方改革」への理解を促進する。</li><li>・求職者向け：アプリの活用により、空いた時間や希望する日だけアルバイトができるなど、潜在的な働き手の多様なライフスタイルや希望に対応できる働き方を提供する。</li></ul>
<b>オ 他産地・他産業との連携による労働力確保</b>	
<b>【課題】</b> 引き続き県内他産地や他産業とのさらなる連携を推進していくとともに、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて県外との連携方法も検討していく必要がある。	<b>【次年度の取り組み】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・さくらんぼの人手を他品目につなげるため、働き手への他産地の求人情報の提供や、移動にかかる交通手段等の支援等に関する検討を進める。</li><li>・コロナの状況に応じて、県外からの求職者への対応マニュアル等を作成し、農業者側の受け入れ体制を整備する。</li></ul>

# （山形県 参考資料） 農業労働力確保に向けた取組みについて（令和2年度）

新型コロナウイルス感染症の影響により、従来ターゲットとしていた層（県外からのアルバイト、県内の子育てママや高齢者など）からの労働力確保や、研修会方式での各種事業、他産地との連携の推進等の実施が困難となるなか、新たな手段で取組みを行った。

## 労働力の確保、育成、マッチング等

県内向けラジオCM、リスティング広告等新たな広報媒体の活用や、新聞広告やフリーペーパーへの掲載回数の増により、JA無料職業紹介所の周知を重点的に実施。県内での労働力の掘り起こしを強化した。

### JA無料職業紹介所の実績の向上

【求人：987人（前年度+43人） 求職：802人（前年度+197人） マッチング：585人（前年度+144人）】

地域の民間企業や学校でボランティアを行う事例が多く見られるなど、地域の中でさくらんぼ産地を応援する意識が高まった。初心者向けに作業内容を分かりやすくまとめた「さくらんぼ作業ガイドブック」を作成し、求職者の技術習得を支援した。

（オンラインでも掲載。 <http://agrin.jp/menu/c/212/>）

新規雇用者などが自宅で箱詰め研修ができる「さくらんぼ箱詰め研修キット」を作成し、体験の様子をさくらんぼ作業PR用のSNSで発信してもらうことで、研修と情報発信を一体化させた取組みを実施した。

## 農業の「働き方改革」への取組み

農業者の「働き方改革」に関する理解促進のため、研修会等の開催を予定していたが、コロナの影響もあり開催を見送ることとなった。適切な労務管理や労働環境の改善、多様な人材の活用など、農業の「働き方改革」による農業全体のイメージアップは山形県の農業の持続・発展に必要不可欠であり、令和3年度に向けては、優良事例の収集・共有の形でのアプローチなど新たな方法を検討していくこととした。

求職者の多様な働き方を可能にすることで幅広い層の人材から協力を得ることや、農業者が必要な時に必要な人手を確保できる手段を提供することを目的として、1日農業アルバイトアプリ「daywork」の活用を検討。秋のりんご作業で試験的に導入し、さくらんぼ作業での本格導入に向けた県内の体制づくりを推進した。

## 他産業・他産地との連携による労働力確保

さくらんぼ農家への応援に協力する「さくらんぼ産地サポーター企業」を募集する取組みを拡充。観光業や飲食業を中心に協力依頼を行ったことでサポーター企業が増加し、従業員がボランティアやアルバイトとして収穫作業等に参加した企業もあった。アプリを活用した1日単位からのマッチングにより、県内の他産地での求人にも応募しやすくなるほか、休日を利用した副業としての農業アルバイト等も可能になると見込まれることから、産地横断的な人材の活用につなげていく方法としても活用を検討している。